慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | 経済学史上の一奇観 |
| Sub Title | |
| Author | 小川, 節 |
| Publisher | 三田学会 |
| Publication year | 1909 |
| Jtitle | 三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.1, No.1 (1909. 2) ,p.129- 133 |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 雑録 |
| Genre | Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19090201-0106 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

どは、皆空想に有利なる外界條件である。而してこの條件は身體的精神的疲勞を爲すの條件なるが故に身體的精神的疲勞は空想に有利であると云へる。午後の學課、眠る前の床の中が空想に有利なる亦た此理に外ならない。

身體的精神的疲勞はやがて注意の不活潑なることを意味する。さればとて注意の不活潑なる時のみ空想の好時ではない。たま〳〵有意的注意を拂つて更めて空想の題目を捉へることがある。而してその題目が不愉快ならば消えて失くなる。前にも述べたが事實の有無に拘らず論理的次序に依て物語めいた空想を打建てる場合などが是である。空想に伴ふ情緒は常に沈んでゐる是れ恐らくは筋肉や神經系統の弛緩するが爲めであらう。

空想その物は病的でない限りは何時として愉快を覺えざるはない。之を否定して空想は愉快を搔亂する要素であると云ふ者もあるが是れ單に空想後の結果を見て空想その物を内省しないからの謬見であらう。空想その物は決して不愉快ではない。



時とすると悲しい傷ましい空想さへも樂まれる。黄昏時の空想は最も沈んだ情緒の色を帶びると共に往々道德的宗教的希求に依て特色化せられる。斯う云ふ空想の氣分は人に一種の安息を與へるものである。

吾人は病的空想に就て一言するの機會に接した。病的空想の場合には筋肉の弛緩と云ふことはなくて局部的麻痺及び硬固(コリ)が顏面や兩手や特殊の運動に現はれる。この空想は大人の多く經驗する所で快い鬱憂や甘き苦痛を覺える普通の空想とは截然區別すべきものである。凡そ内容は實際的の悲痛困厄で、極めて想像の影に乏しい。その病的傾向はしば〳〵自我に意識せられ心を他に轉ずる努力に依て避け得られる。若夫れ身體的不健全の之に伴ふあらばこの空想は堪ふべからざる壓迫を感ずるのである。もがけども〳〵之を避けるに意思の力は餘りに無能となる。

サー。ジエムス。クリヒトン。ブロウンの見解に依ればあらゆる夢及び空想の心的狀態は或病的傾向を持つてゐるもの、換言すれば健全なる精神には心身上何等の病的傾向を見出すことは出來ないものである。之をたしかめるために癲癇病の發作とも思はれるやうな種々の空想を引例して空想に囚はれたと云ふ天才の人々は空想のために如何に事業の阻害を受けたかを論じた。しかしこの見解が果して正當なるや否やは今姑く疑問として殘さねばなるまい。今日までの研究に依れば空想が病的に傾き易いのは主として視的想像力の强い人々に限られてゐる。文學上宗教上の大空想家も概ね視的想像力のすこぶる發達した人々であつた。ダンテ、ミルトン、モハメツト、スヰンデンバルグ皆是れである。



兩性間に於ける空想の内容形式が如何に大なる相違を示すかは以上の所説に依てやゝ察せられるであらう。是れ一は遺傳及び傳習的訓練に由るのであらうけれども又た以て兩性間の相違が如何に内存的で根本的であるかが解る。

# 經濟學史上の一奇觀

小川節

經濟學史を繙く者の必ず目擊する一奇觀は個人主義及び社會主義の兩學者が彼の價値勞力說卽ち財の價値は勞力に因り生ずるものにして隨て之が高を決定する唯一の原因は勞力の分量にありと云ふ說に就て偶然にも一致したること是なり。

今參考の爲めリカード、バスチヤ幷にマルクス、ラツサル等主なる兩派學者の諸說を揭げば凡そ左の如し。

一、リカードの說。財物が價値を有し隨て交換價値を得るが爲には固より其貨物が效用あることを必要とするも其外尙(一)財貨の稀少なることを必要とするも其外尙(一)財貨の稀少なることを必(二)之を得るに必要なる勞力の分量あることを必要とするものなり然れども今日此の第一の要件に依りて其交換價値を定めらるゝ貨物は甚だ稀れにして多くは皆な第二の要件卽ち其生產に要せられたる勞力の分量によりてのみ支配せらるゝもの

なり蓋し普通多くの貨物は自由競爭の下に於ては自由に其供給を增加し得るを以てなり。最後に彼れは此の論歩を敷衍して遂に資本は蓄積せる勞力(Accumulated Labour)なりと論ぜしを以て後世彼の說は屢〻社會主義者の爲めに引用せらるゝに至れり。

リカードは全然勞力を以て價値發生の原因とは爲さゞるも而かも大體に於て勞力說を採れるは上段述べたる所を以て明かなりとす然るに近來或る學者殊に社會主義反對論者は社會主義者がリカードの學說を引用吹聽せるを見て不都合且つ不可思議とや思ひけん頻りにリカードを辯護して彼れは決して勞力說を稱へたるものにあらずとなせり然れども實際彼れが勞力說を主張したるは事實にして之に對する何等の反證なきのみならず又當時の社會狀態を洞察し彼れに及ぼせし影響如何を考察せば必ずしも怪むに足らざる所以を了解せん(後段明かなるべし)

一、バスチャの說。財の價値は全然勤勞より生ずるものなり隨て物の價値は其物に固有なる或物質を指すにあらずして勤勞と勤勞との比例を意味するものなり故に人間の相互的勤勞のみ價格を有し隨て報酬を求め得るもの也反之生產上自然の割助を有するものは常に純然たる無代價のものなれば決して物價中に包含せられざるもの也。

一、カール、マルクスの說。貨物に價値を生ぜしむる原動力は單に勞働のみならば隨て貨物の價値は之を生產する爲めに用ひられたる勞力の分量より成るもの也卽ち換言すれば貨物の價値は其生產に使用せられたる勞力の分量によりて測定せらるゝもの也例へば長靴と砂糖とを交換するに當りて一足の長靴を與へて十封度の砂糖を得とせば是れ一足の長靴が一封度の砂糖より十倍甘きが爲めに非ずして之を生產するに十倍の勞力を費したるが爲めなり去れば今若し勞働者が十時間の平均勞働を費して或る貨物を得とせば其貨物たるや必ず他の貨物と交換するに當りて同一の平均勞働を費せる生產貨物と引替へられざる可らざるは勿論也此





の理法は獨り有形貨物の交換に於てのみ然るにあらずして勞働者が其勞力(Arbeitskraft)と稱する無形の貨物を以て他の有形貨物と交換する場合に於ても亦適用を見るべし卽ち勞働者は十時間の平均勞働に値する勞力を與へたるときは之れと引替に十時間の平均勞働を要せる生產貨物を受取らざる可からず。マルクスの有名なる剩餘價格論は此の論法を本とせるもの也。

一、ラッサルの說。マルクスの說と殆ど同一なり故に再び茲に贅せず

以上掲ぐる兩派の諸說を一目するに其間多少の相違はありと雖も大體に於て價値發生の原因を勞力に歸するは皆同一なるに似たり。

夫れ此の如く兩極端に立てる兩主義者が期せずして同一の說を稱ふるに至りしは實に經濟學史上奇なる現象と云ふ可し然かも此の價値勞力說たるや今日の進歩せる經濟學上より見れば殆ど一顧の價値だに無き偏見誤說なるに於ては尙更奇異の感を深うせざるを得ず然りと雖も一歩退いて冷靜默慮其の因て來りし事由を深く洞察せば必ずしも怪むに足らざる所以を了知せん蓋し經濟學說は其れに直接の影響を及ぼす世態の如何に依て形ち造らるゝ性質のものなれば其處に若し同一の事情存せば假令ひ時代は異なるとも亦同一の學說を生むに至るは自明の理なればなり去れば此の點に於て此の奇なる一致も最早や怪むに足らざるものなれども尙進んで吾人は實際兩派の學說に及ぼせし影響は果して同一なりしや否やを次に解かんと欲す。第一個人主義者が斯かる學說を稱ふるに至りし事情を考察するに當時歐洲諸國は所謂重商主義てふ思想に絡まれ國家は絕大無限の權力を以て或は個人の自由を拘束し或は其の經濟的行爲を束縛し以て干涉に干涉を重ねたることは既に世人の知る所なるが斯かる干涉主義なるものは幼稚なる產業を哺育し以て國富を增進するに當ては敢て弊害を見ずと雖も一旦生產業發達し國力充實せる曉に於ては之を株守して却て弊害を釀すの恐あるものなり果して此の言の如く種々なる弊害は重商主義の晩年

に年り歐洲各國到る處に續發し來れり卽ち製造業は相次ぎて倒產し商工業は日に日に衰へ延いては勞働者の困難を招き殊に農民に誅求したる結果は農民の困窮日に甚だしく其他種々なる弊害破綻は續々として外部に暴露せられ歐洲全土は擧げて混亂の渦中に投せらるゝに至れり玆に於てか個人主義は現はれ右の弊害殊に農民及勞働者の困窮を救はんと欲し大に論じて曰く國家の富强は個人の勤勞に依りて生ずるものなり然るに國家は個人の行爲を束縛し此の國家富强の源泉を杜絕せんと欲す誤なれるも亦甚だしからずや此の如くんば國家の進步は到底望む可らざるのみか遂には破滅に至るべし豈恐れざる可けんや今若し此の窮狀を救はんと欲せば宜しく個人の自由を許し其勤勞を尊重し大に活動の天地を與ふるに如かずと。是れ卽ち個人主義者が價値勞力說を稱ふるに至りし事情なり。

第二に社會主義者は如何なる事由に因りて斯かる學說を稱ふるに至りしやと云ふに是れ亦世人の知る如く十九世紀以來社會は個人主義者の豫期と異なり秩序は亂れ貧富の懸隔は益〻甚だしく富者は無爲無勞にして而かも金殿玉樓に住ひ冬寒からず夏熱からず悠々自適以て其の日を樂む一方に勞働者は粉骨碎身日夜激務に從事するも而かも得る所は僅かに糊口を凌ぐの有樣となりたれば玆に於てか社會主義者は立ち大に此の狀態を憤激し如何にかして彼等を救はんと欲し遂に働勞者に都合好き學說を建つるに至りしなり是れ卽ち社會主義者の價値勞力說を稱ふるに至りし事情也。

論じて玆に來たれば最早や吾人は此の奇なる一致も怪むに足らざる所以を了解し得たり蓋し彼等兩主義者が共に同一の學說を主張するに至りしは彼等兩派の現はれし當時の社會が勞働者救濟と云ふ同一前提を與へたるを以てなり然れども玆に注意せざる可らざることは假令ひ前提は同一なりとも其結論に至りては全然異なれりと云ふことと之れなり卽ち個人主義者は勞力は價値の元なるが故に之れが活動を自由放任して益〻其發達を遂げしむべしと云ひ社會主義者は勞力は價値を生む母なれば勞力者を保護尊重して勞力の結果の全部を勞働者に歸せしむ可しと云ふにあり是れ蓋し前者は國家萬能時代の後に出で後者は個人萬能時代の後に發したるものなればなり。



終りに臨み此の價値勞力說に就て一言せんに此學說は餘りに偏狹極まるものにして到底價値發生の眞因を說くものにあらず何となれば此學說にして可なりとせば苟も勞力を加へたるものは常に値價を有せざる可からざると同時に毫も勞力を加へざるものは如何なるものも價値を有せざるべき道理となる可ければなり然るに實際世上幾多の事實を見るに勞力を加へずして而も價値の發生せる事實あると同時に又勞力を加へたるに拘らず毫も價値の發生せざりし事實あり例令ば先祖傳來家寶として庫中に藏せる大判小判の一朝金價騰貴の結果數倍の價値を有するに至れるが如きは卽ち前者の例にして亦巨額の資本を投じ多大の勞力を加へて開墾事業に從事せるも遂に一大失敗に歸せるが如きは卽ち後者の例なり、更に一步を讓て價値の起因は勞力にありとするも然らば其勞力の價値は如何なる原因に基くものなるかの疑問を生ずべし蓋し勞力其れ自身も亦價値を有す可ければなり論じ來れば此の如く此の勞力說なるものは何れより見るも到底維持すべき說にあらざることを知るべし

（完）

## 新著批評

### 横濱市政研究會顧問三宅磐著

### 都市の研究

顧問のタイトルある人の書いた書物で特に研究と云ふ表題だからドンナ名著かと思つて一讀して見た先づ開卷第一に大隈伯の序文として毒にも藥にもならない樣な事が書いてある由來隈伯は手紙を書いた事がないと云ふのが自慢ださうだ手紙さへ書かない人がドウして本の序文などを書くの理があらうかコンナ僞物と極まつた序文は却て無い方